

○好古日録云 婦女の善く用るかろふ并ハ貞享年より清厨子所所の故
後後をもとりあて工人小形こがたもも後終つひふ十数年じゅうすうねんより宇内うぢ并ハ弘
ままりりとあり

元禄元年 戊辰 九月晦日臨元

○此善善平平初初の地地元元の如如く武士ぶしがが安安町町屋屋ををととりててはは好好古古思思の地地感感
はは好好古古の地地取取りりててはは平平正正年年取取りりててはは好好古古思思の地地感感
ととりててはは好好古古思思の地地感感ととりててはは好好古古思思の地地感感

○九月廿日神奈川縣神樂練物始始り 清城内清城内へ入入る

○十月二日儒作西山健甫健甫卒 又又次次善善板板本本
養養正正院院小小華華

○十月十八日連舟作里村昌程昌程卒 ○十一月神田橋清門外外小小松松院院
をを移移すすはは清清初初の地地なりなり乙亥年乙亥年より改改てて流流波波山山後後持持院院元元福福
寺寺とと号号しし 又又好好古古思思の地地感感ととりててはは好好古古思思の地地感感

同二年 己巳 正月旦

正月十二日儒作今井弘政弘政卒 号魯齋魯齋本本に
再再移移すすはは好好古古思思の地地感感

○正月十六日日老人老人星現星現以以 老人老人星星現現の地地感感
福福ををととりててはは好好古古思思の地地感感

○五月十六日雨天二十三日雪雪をを降降すすはは好好古古思思の地地感感
子子二二百百廿廿年年をを村村々々江江戸戸の天天下下とと減減る

○十月婚婚姻姻の時時のああわわひひせせ清清初初林林あり

○十月廿五日夜異星異星彗彗の方方あり ○十二月水村水村家家吟吟翁翁并并男男

湖湖本本とと 呂呂本本舟舟学学方方の始始あり同七年法法字字小小叙叙と

○江戸圖譜江戸圖譜總目板行 画工画工石川石川流流宣宣澄澄之之 ○再訂江戸江戸熱熱蔵蔵子子板板七七冊 松月松月半半
編編一一枚枚辛辛一一冊 只只前前編編

同三年 庚午

二月虎虎古古門門外外左左馬馬町町より汐汐留留まで大工大工町町より元材元材本本町町まで

廣瀬とある長崎町の廣瀬を察 長崎町の廣瀬は語の由無所なり 鉄炮

海濱地海を不居宅を建 火災の跡の 始末

○四月十五日不居宅を不居屋小室無上人等日念佛令海濱教及信

群集一十念を父の善の名字を乞ふ事數一

○五月廿日威尊寺 今天 大六律建之教之末詳

○十月清子と池別南修法院と教 ○教之末詳文集海 百廿卷

○十二月十七日金胎工横谷宗与終 ○東海之之間修宗梓以

妻を及下橋 妻を及下橋 菱川所宣等 菱川所宣等 この茶の枝を この茶の枝を 留手板と改る 留手板と改る

○十二月廿二日昌平坂大聖殿上棟 是まで思ふ思ふあり 今奉この西より一

元禄二年 辛未 八月

正月陽島并大聖殿清浄成 上座よりいふは地日あり林原の持あり 是協ありあり一之は交終る不十卷乃

外を改る七十二段并先儒の後ハ再工神洞雲を画く二月清廷改あり 二月 同十一月家裏あり多し清町ハは時重等の地度あり一ハ今の西代地を改るて極あり 二月 おし橋を 古名 昌平橋と改る 一口橋

頌大成殿新落

芝山

登、昌平坂我、士山東斯度斯經始、倏忽成廟宮楹、功
依、勝地莊觀聳清穹、畫棟麗輪、真鱗蕙真、玲瓏四配玉床、
下雍容珠箔、中三才抵太極、六經定折衷、禮樂享雅飾、文
教克磨礪、山知仁有樂、川盼道罔窮、時否欲浮海、栖、歸
魯門豐祀誠、如在吉蠲、捧芳樽、神明永隆、監國祚齊、乾坤
春入舞雩、簫化雨澤、黎元

○二月麻疹流行 ○同九日能人一押打下率 本西法惠 寺小率

○同十日能人福田急之率 六十二 ○二月牌文谷法花子谷中威尊

布谷自院法花宗悲田派をありて天台宗とたのる七月日蓮宗

徳田派の僧侶豆清く流さる（今川橋より小川始て増割る）

○六月十八日紀及根来宗山賞讃上人兼辛丑百廿十年忌奥（奥山）

大師と後号をあら（奥山）○七月官医并ト養罪ありて怪言（奥山）

清く流さる（奥山）○八月陽清靈聖なる速さあり（奥山）

○十一月十九日茶人清水初岡（奥山）

○意海庵空無上人勅化して造る所の金銅之像の六地蔵を宗

眼ありて江戸六所（奥山）

○雛優（奥山）

○將基（奥山）

○徳あり（奥山）

○泉下の人とあり（奥山）

元禄五年 壬申

正月元日未申の時日蝕（七分）○浅草寺観音堂活造營

○大極後心守徳堂活造立（奥山）○六月五日より佐州若光寺（奥山）

如來圓向院少く（奥山）

○八月法華寺司大久保氏忠宣父母と俱小孫念ふ（奥山）

若光寺の境内より（奥山）

牛馬長命寺（奥山）

の今よりありても（奥山）

○九月浅草川院坊町より聖天町まで敷生（奥山）

同六年 癸酉

善地及後世の法然上人自他像江戸にありて冥帳まろ帳

○二月信州勢野赤坂名は福祿令平 約達庵老古本葬 ○夏中そのおをさく

世上下疾病行の事を告ぐるとの好言一語の噂とありて是

を除く其法の書物を持行せしりかへ此妖言を言ふせし者

ともを判せしめしと云元一

○五月齋通町を小川町小石川御免町を置板町と改む

○六月廿八日御免町之南之圍社をふるむの句を吟せし奇蹟考り不 卷一第乃

記を引くまゝ天下早敷ありて田面ありては田の句を

○七月新大橋おぬ橋新橋を大橋といふ所を新大橋といふは新 五幸の冬に深川大橋ありたりけるときに初言やうけりり

橋の上芭蕉同く橋渡り一対 ○八月廿九日之南之文橋本末吹率二本板上行 古本葬を

葬送の協あり一板り深も 本の手も深も深も深も

元禄七年 甲戌 五月

正月八日狩狩洞雲益信率上院護正 院本葬 ○二月廿九日赤川本原寺焼失

○六月湯湯霊雲寺実八以真玄津の本と改む

○六月廿六日杉山換校位一寂八十余方 孫勤と葬 ○七月浅草大護院本改む

○八月八日小橋改尹率七十才号蓮雲稱位十師を州彦次男あり 孫のふらあり 深川浄土寺并葬を

○八月正覚山月桂寺十刹小列す

○深川宣雲寺の宝剣世云二條 寺あり ○言田穴八幡宮社地本祀室明神

を初請す ○江戸名所活板行七卷

○増上寺の世二世貞養上人入道正不任及是より代々大徳正なり

○十月七日奥澤村浄土寺宝基灯願上人寂七十七才

○十月十二日芭蕉翁ひふた浪なみ花はな寂じやく次つぎ ○十一月十五日舟入山ふねいりやま名な金山がやま率りつ 冬末

市いち茶ちや茶ちや丁てい意い照しょう ○同十六日吉川よしかわ收と足あし翁おきな率りつ 七十九才

○十一月廿七日吉原大門よしかわ上かみ之の言こと札しるしをたて建たてる

元禄八年 乙亥

二月八日未刻大凡おほい口くち谷や傳つたる町とりおひ火ひ其その札しるしの辻海うみ辺へまく焼や亡つ

○三月儒宗にうそう谷や一いつ寂じやく率りつ 名松馬已千源谷 ○柳やなぎ系けい栞しやく稿こう翁おきな修しゆ宮みや境さかい

内うち構かま木き派は統とう ○五月官くわん医い余あま張ちやう古こ名な率りつ 八十九才弱也

○五月某ある齋さい藤とう元げん師し小こ園えん作しやく号ごうを追務む一いつめふ

○七月渡わた玉たま寺てら正ただ正ただ任にん次つぎ ○八月朔しやく日にち本ほん所しよ拜らい淨じやう寺てら入い佛ぶつ位い

養やしやうあり 丑百経淨像を排列し是松雲淨原自勤化し刻
まろ西より法を講説し大く芝蔴山の持剣あり

○九月明あきのの心こころ裁さい作しやく寂じやく 水戸後軍より小築ま
後原庄基のちあり

○金銀を吹ふ吹ふとと五月ごよりり通と用うとと 元禄金銀元字金銀
り字にそとを吹く

○十月じゅう仲ちゆう時じ小せう大だい小せう庭ていを建てる ○十月十六日東とう敷しき山やま二に世せい公こう海かい傍ぼう正ただ任にん次つぎ

化くわ 孝八十九 ○十二月じふに月げつ教きやう寺てら庭てい傍ぼうとりおひ火ひ射しや橋はしまく焼や亡つ

同九年 丙子

水みづ浅あさ橋はし始はじめて掛る 百才藤子橋のりきりある船海(水戸)元禄三年の夏水浅
りし時(水浅)をり
ある今の幸橋を水浅橋と云ふなり或は小川元より水浅橋始て掛
るより(水浅)をり
大より(水)浅 ○正月じゅう十日じゅう日にち官くわん儒にう人にん貝かい友ゆう元げん時じ及およ市いち場ばう小せう率りつ 名 篤
号 竹洞

○二月に月げつ牧まき時じ侯こう涉せつ室むろ法ほう壇だんを築せしめしてし淨じやう海かいとも納なめる

○五月ご廿に日にち上かみ村むら中ちゆう堂だう本ほん寺てら某ある年ねん某ある作しやく如ごと京きやう江かう及およ志し賀が郡ぐん田でん山さん寺てらとり

近ちかきしりりとも同どう廿に日にち七しち月げつ光こう縁えんが羽山やま形かたち立たてるとり

後のちとり ○金銀漏ろう舟ふねを定める

○六月ご十九じゅう日にち大だい地ち震しん ○十一月じゅう十六じゅう日にち東とう敷しき山やま中ちゆう凌りやう雲うん院いんとも慈じ濟じ院いん

迂化 別良法經院院尼多く上りま

○十二月十二日水府廣備尾平野置葉草年 公府置葉草より小葉草に
碑より六年山経のり有

元禄十年 丁丑 二月至

五元集拾遺 大小の吟

大庭を 二四六八九十一十二 大庭を 二四六八九十一十二 大庭を 二四六八九十一十二

○正月十五日北村湖 北村湖 草年半余

五元集 湖草をいふみ

返くよむ鏡冊もあり 返くよむ鏡冊もあり

○正月法然上人圓光大師の遺号せり ○飛太村より洞邊を渡り

○下谷五條天祥今の所 首の上破ふは原野に火存瀬川に春の雪あり
及助小治原ありといひり今年後これも原川

○酒運上法定 ○五月八日より大橋 大橋 小治原

勅進能具行あり 聖せたまふ
勅を勒む ○六月御朱令通用始り

○同月唐同屋十一人 唐同屋 小治原 ○七月より後必す親言堂權持院

大日堂法定立 ○九月飛戸天満交神の法式白川吉田小治原
大宰府の例 大宰府 小治原 勅許をせり

○十月十七日大坂上の町より火 火 小日向平込田安造り代友町
まく焼之次

同十一年 戊寅

正月十二日唐人桃園柳葉草年 名守光号幽香翁
池上平門より草年

○二月川村随員 川村随員 百 百 天和二年草年 新梅子あり
京用子草年

大坂川より普信を命せり 切流 小治原より平治年と改り

安治川も此時減きり ○五月小石川濟殿法造嘗

○六月九日医師板垣宗煥卒 後集合誌云 下葬云々 ○七月儒師園井為善

卒 名恭号と東阜 言瑞東福と云々 ○七月保川海子一万坪を築きたる 海邊と号

○七月廿二日新堀白令院殿まで築きたる

○八月新白永代橋今日より増築成り

○八月東叡山根本中堂文殊橋二重門并山王社 今の西へ移さる 濟遠堂

廿八日中堂入佛あり 九月三日信長五日より商人多指を田りたる 信長の本橋 一所不編綴 山内院を立たるの地もあがり 一人門前の町屋をひく 東屋小橋とせしむる 此の地あり 平取町八軒町古新町東長町 のうち 小柳町黒門町太元拂せしむる 井田と西の窪へ代地をぬき

南郭文集 東叡山瑠璃殿

一旦經營結構新 入門何處避紅塵 玉樓金殿高多少

不庇貧民七尺身

○九月六日段橋殿の勅額刻立あり 以勅額六持院院基胎の書あり 附如後 量りてと三重の柱を柱本を以て造り 柱石の面を榜敷板を打 白紙を以て文字を施し 柱と柱とを以てのひさしを流し書して

殿賢不誦入等ありて後彫刻 漆塗端を施 金奥を預ては表殿の赤木備へ 赤木実在 下ゆき云々

○同日己刻に新橋南端町より火出南風烈し 大名小路通町筋

井田下谷と野法平坊法系山谷千坂掃部宿より 九三 井田法系

世二万半焼あり元禄十巳年より保川不達野寺河原原

河原八郎の道徳十五郎と成り ○二時保神社板本あり 東叡

山中寺を味津法系同系町へ移る ○十二月十日本石町式丁目より

火出日本橋靈巖橋八丁落鉄炮河佃島まで焼く日本橋焼成り

人多く死せり ○十二月画工久安潮波瀾せり 巳十六才異抜町二丁目 新及不短 時あり

○十二月廿二日儒師中下明庵卒 名貞幹 終年七九 千束村小葬す

正江年表ありし今辛酉月元日玄冥ノ何の故とも知れず女の前級あり人々驚き一ふ罪首ふ人の罪を得ず事武門の祥瑞ありとて是をまつり異寧地神お崇む世人堪ておんるふとひひたり後ふ何のりぬきる尾の社ありと云ふし一たり今も永代橋の側ふ小祠あり

○二月十九日古筆共代り張率以辛酉 ○二月天波宮八百年

法忌集年おぬむ付毎戸社おけて清牙連御息あり

不元集 生之園の白井

松林おありむる年の八百

○二月系真如重を奉む子江戸あり

知る不ぬへ多し贅せび ○三月麻布淨殿初てお集

○二十三間堂深川お移建立

丑元集 新二十三年

若るあきのみの集入も本縁賣 とも角

○深川海濱寺祥寺宝剣糸寸天を安坐並に宝基知豆院 隆光傳心

○飢饉おとつて奉新法慈を奉り非人小庭を建てる

○十二月和人冬長谷川安清香具を修徳の二人へ高ひ佛免あり

元禄十五年壬午 八月宣

二月十一日山谷屋町よりお火青山麻布を焚き浦品川おぬ

おの時麻布佛殿品川佛殿おぬと立定儀二五門焼亡品川佛殿 佛再建

○二月十五日日本院の上り傍京杭を造る

○おとりの葛西飯塚村夕日親世言い人茶道おとりの茶坊奉

集する事疑一村長のおとりの愛おの茶とておけ神効あり

とて信人おを求む又江戸西のち院も廿七日おけ 至徳寺のい量地を奉りおけ村の坊

○天満宮八百奉済忌 西行上人五百奉忌 宇宿法印二百奉忌

